

●質問等について

【資料1-1】

質問番号	該当施策	意見・質問の内容	担当課
1	1-1	課題として認識している年度途中の待機児童解消に向けて、どのように取り組むのかお聞きしたい。	子ども育成課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> <p>申請者および保留者に教育・保育施設の空き情報を提供するほか、希望に添った施設を案内するなど、引き続き、年度途中の待機児童の解消に努める。</p>	
2	1-2	<p style="text-align: center;">意見・質問の内容</p> <p>取組事業1について、ハローワークとの連携などはどのように行われているのか。</p>	子ども育成課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> <p>保育士・保育所支援センターPR用ポスター・リーフレットの設置のほか、福祉・医療などの人材不足業界の関係者を対象とした「人材確保対策連絡協議会」への出席により、情報交換を行っている。</p>	
3	1-2	<p style="text-align: center;">意見・質問の内容</p> <p>あらゆる分野で人材確保が難しくなっている。保育士人材の確保も大変だと思うが、C評価となっている要因と今後の対応方針をお聞きしたい。</p>	子ども育成課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> <p>令和5年度の就職決定者数が前年度と比べ減少したためC評価としたが、事業全体としては一定の成果を上げていると認識している。今後も専任のコーディネータによるマッチングや保育セミナー等の開催により潜在保育士の現場復帰を支援し、引き続き保育人材の確保に努める。</p>	
4	2-2	<p style="text-align: center;">意見・質問の内容</p> <p>目標指標4で放課後児童クラブの定員数はA評価となっているが、目標指標1の放課後児童クラブ待機児童数がD評価となっている。その理由は何か。また、どのように待機児童の解消を図っていくのか、対応策をお聞きしたい。</p>	子ども福祉課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> <p>市内の放課後児童クラブの総定員数は目標値を確保できたが、児童数並びに放課後児童クラブ数には地域差があることから、一定の地域に利用希望が集中したときには、全体の総定員数は十分足りていても待機児童が発生することがある。 また、待機児童解消については、放課後健全育成事業の実施場所を増やすとともに、既存クラブや社会福祉法人等に施設整備費の補助制度の周知を図るなど、各地域のニーズに対応した受皿の確保に努める。</p>	

質問番号	該当施策	意見・質問の内容	担当課
5	3-2	ニーズ調査をどのように分析しているのか。(不安がやや増加、事業の利用率の減少) 他の調査でも同様の傾向はみられることから、今の保護者にとってより身近で利用しやすい方法や広報等を検討してほしい。	子ども健康課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> 平成31年調査時との比較では、当課の健康教育事業利用率は減少しているが、ネウボラ利用率は24.9ポイントの増加となっている。ネウボラは、妊娠期からの切れ目ない支援を行うための最初の窓口であることから、個別に健康教育事業等の情報提供していくとともに、さらに秋田市公式SNS等を活用しながら、子育て情報等を発信していきたいと考えている。	
6	3-3	意見・質問の内容	担当課
		課題認識の小児科救急外来について、これまでの周知方法と、現時点で考えている対応策があればお聞きしたい。	子ども総務課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> これまでは、秋田市子育て情報サイトや秋田市子育て情報誌、母子手帳等に掲載し周知を行ってきた。引き続き、ホームページや子育て世帯に配布するリーフレット、冊子等に掲載するほか、新たに市のSNSを活用するなど、効果的な周知方法を検討し、実施する。	
7	4-2	意見・質問の内容	担当課
		目標指標について、令和4年度以降、把握するのをやめたようだが、念のため理由を確認しておきたい。	学校教育課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> 「学校と家庭が協力し合う機会の充実」「学校と地域がつながりを深める機会の充実」については、秋田市教育ビジョンの施策「人間関係の育成」に基づき市立小・中学校に「絆づくり教育プラン」の作成・実施をいただいている。 「絆づくり教育プラン」を含めた秋田市教育ビジョンの施策の実施状況を確認するために「教育経営に関する調査」を実施しているが、令和4年度からは調査の内容・実施方法を大きく見直し、4-2の指標については、主観的な回答になることから調査を行わないこととした。	
8	4-4	意見・質問の内容	担当課
		取組・事業の自己評価の中で、結婚に関わる3つの事業がC評価となっている。個人の人生観にもかかわる難しい取組だと思うが、事業の実施状況、C評価の理由を確認したい。	子ども総務課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> ふたりの出会い応援事業については、あきた結婚支援センターの会員登録料1万円を補助しており、令和5年度の補助件数が前年度実績を下回ったことから、C評価としたものである。 また、あきた結婚支援センターとの連携による結婚支援については、センターと連携しながら登録料補助のPRカードを設置するなど、センターへの登録を促しているが、登録会員数が年々減少傾向にあることから、C評価としたものである。 結婚新生活支援事業は新婚世帯の住宅取得に係る費用を一部補助するもので、補助件数は年々増加しているものの、婚姻前の事業認知度が半数程度で目標の7割に届かないことから、C評価としたものである。 いずれの事業も、これまでの周知方法を見直しながら、新たに市のSNSを活用するなど、効果的な周知に努める。	

質問番号	該当施策	意見・質問の内容	担当課
9	5-1	企業側に対して市から何かしら支援等できないか。	子ども総務課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> <p>子ども総務課では、秋田市元気な子どものまちづくり企業認定・表彰制度を通じて、子育てを社会全体で支える機運醸成に努めている。また、企業立地雇用課では、仕事と子育ての両立支援に取り組む企業に対し、施設整備の費用の一部を補助する秋田市なでしこ環境整備補助金を行っている。今後、子育て世帯に限らずあらゆる分野で必要とされるワーク・ライフ・バランスに対応するため、企業に対して、庁内で横断的な支援を検討していく。</p>	
10	7-1	<p style="text-align: center;">意見・質問の内容</p> <p>虐待の予防、早期発見は重要な視点と思う。その中で、ある程度の成果は出ていると思う。ニーズ調査では、就学前・小学生の親の子育て不安は令和6年が高くなっているのは、親の虐待に対する理解が深まってきている表れと受け取られる。連携・協働は保健・児福のみでなく、学校や民間機関等も入るとなお充実すると思う。(具体的な連携・協働とはどのような方法か?)</p>	子育て相談支援課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> <p>子ども家庭センターを設置したことにより、母子保健分野で把握した虐待が疑われる児の情報について、早急に情報共有することが可能となった。また、その支援についても、両部門で合同ケース会議を開催し、早期に両部門の特性を生かして対応することが、円滑に出来るようになった。</p>	
11	1-3	<p style="text-align: center;">意見・質問の内容</p> <p>目標とした施設数に対する達成率は高くなっているが、それぞれのニーズに対する供給量は十分か。病児保育については、その需要が感染症等の流行の推移などによって大きく変化するが、施設の安定的な供給のために、このことに対する対策が必要と思う。</p>	子ども育成課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> <p>病児保育においては、平時のニーズに対する供給量は十分であると考えているが、一方で、感染症の流行期には、一時的なニーズの高まりにより、病児保育を利用できないことが想定される。この点については、どのような対策が有効的か、利用者と提供施設それぞれの要望を勘案しながら今後の対策に努める。</p>	
12	4-2	<p style="text-align: center;">意見・質問の内容</p> <p>各事業の実施回数や参加者数等の状況はどうであったか。</p>	子ども総務課
		<p style="text-align: center;">意見・質問に対する回答</p> <p>子ども家庭相談では、子育て家庭が安心して子育てできるよう、支援が必要な人を必要な支援につなげる相談体制の充実を図っており、令和5年度の相談件数は6,027件であった。その他の事業内容や実績については、令和6年度第1回社会福祉審議会児童専門分科会で配布した様式1-2「第3次秋田市子ども・子育て未来プラン進捗状況(取組・事業実績)」をご確認いただきたい。</p>	

質問番号	該当施策	意見・質問の内容	担当課
13	4-3	各取組・事業の内容と実績はどのようであったか。指標も街頭巡回のみとなっているので、客観的な評価ができない。	子ども総務課
		意見・質問に対する回答	
		若年者に対する消費者教育推進事業については、若年者の消費トラブルを未然防止するため、SNS等を活用した情報発信として、令和5年度はLINEで10回配信した。その他の事業内容や実績については、令和6年度第1回社会福祉審議会児童専門分科会で配布した様式1-2「第3次秋田市子ども・子育て未来プラン進捗状況(取組・事業実績)」をご確認いただきたい。	
14	4-4	意見・質問の内容	子ども総務課
		各取組・事業の内容と実績はどのようであったか。指標も就職決定率のみとなっているので、客観的な評価ができない。	
		意見・質問に対する回答	
		新卒者地元就職促進事業では、高校生を対象とした就職支援講座を開催(10校で34回、1,603人が参加)し、ハローワーク秋田管内の高校生の県内就職の状況は令和5年度で74.4%であった。その他の事業内容や実績については、令和6年度第1回社会福祉審議会児童専門分科会で配布した様式1-2「第3次秋田市子ども・子育て未来プラン進捗状況(取組・事業実績)」をご確認いただきたい。	
15	5-1	意見・質問の内容	子ども総務課
		ワーク・ライフ・バランスの実現に対する取組は、雇用労働施策として別に取り組みされているか。ここでは子育て支援に係る対策としての取組と思うが、連携した施策が求められる。事業所においてワークルールの遵守やワーク・ライフ・バランスがどの程度実現されているか現状が把握され、その状況に応じた具体的な施策が必要と思う。	
		意見・質問に対する回答	
		本市のワーク・ライフ・バランスに関する取組みは、子育て世帯を対象としたものとなり、雇用労働施策として別に取り組んでいるものはない。	
16	6-1	意見・質問の内容	子ども総務課
		各取組・事業の内容と実績はどのようであったか。目標指標が各事業の成果として直接の関連性を示すとはいえないと思われる。事業の性質等に応じ、外形的な指標も設けるなどして、取組・事業の効果が客観的に見えるよう工夫が必要と思う。	
		意見・質問に対する回答	
		交通安全教育事業については、子どもを交通事故から守るため、幼稚園等を対象とした交通安全教室を実施し、令和5年度は104施設で開催した。その他の事業内容や実績については、令和6年度第1回社会福祉審議会児童専門分科会で配布した様式1-2「第3次秋田市子ども・子育て未来プラン進捗状況(取組・事業実績)」をご確認いただきたい。	